

令和3年度 第4回武蔵野市地域自立支援協議会 会議録

- 日 時 令和4年1月24日(月曜日) 午後6時30分～
- 場 所 武蔵野市役所西棟4階412会議室(オンライン開催)
- 出席者 岩本会長、植村副会長、荒木委員、安東委員、小原委員、久保田委員、佐藤(清)委員、佐藤(資)委員、佐藤(律)委員、長谷川委員、番園委員、福本委員、三浦委員、横山委員
- 事務局 勝又障害者福祉課長、齋藤課長補佐、三浦基幹相談支援センター長、吉村相談支援担当係長、永田主査、鈴木主任、岡村主事

1. 開会
2. 配布資料確認
3. 議事

(1)各専門部会の活動報告について

【事務局】 定刻となりましたので、これから、令和3年度武蔵野市地域自立支援協議会第4回親会を開会いたします。

新型コロナの感染拡大により、急遽オンライン開催となりましたが、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、進行は会長にお願いいたしますので、よろしく願いします。

【会長】 皆様、こんばんは。今年もよろしく願いいたします。12月の中旬ぐらいまではコロナが落ち着いていて、まさか1か月ぐらいでこれほどになってしまうというのは、ちょっと想像をかなり超えていて、皆さんの職場や日常の中でもいろいろな影響が出ているところかと思えます。そのような中ですけれども、今日は皆様にZ o o mでご参集いただきまして、ありがとうございます。

事前に事務局から資料をデータで送っていただいておりますので、まずお手元にございます次第に沿って議事を進めてまいりたいと思っております。

それでは、まず初めに事務局より資料の確認をお願いいたします。

【事務局】 よろしく願いいたします。

お手元に配付した資料ですが、データで送らせていただいております、第3回の自立支援協議会の議事録でございます。もう一つ、各専門部会の議事録を送らせていただいております。

資料については、以上です。

【会長】 ありがとうございます。皆様、資料のほうは大丈夫でしょうか。

今日は大きな議題が2つです。まず、前回に引き続き、各部会の活動報告。それから例年3月に開催しております全体会についてです。この2年間、全体会を開催できていないという状況になっておりますけれども、今年度の全体会をどうするかが議題になっております。

前回の親会が11月でしたので、年末年始を挟んだところで、各部会、限られた期間での活動状況かと思いま

す。各部会から、前回の活動報告の後のことを中心に、今どういう状況で進んでいるかということ、それからこのオミクロン株の影響もあると思いますけれども、各部会の活動において困っていることとか、あと年度末に向けてほかの方から意見を聞きたいということなどもご発言いただければと思っています。

では、各部会のご報告をお願いしたいと思います。いつも順番で恐縮ですが、まず地域生活支援拠点部会で部会長の委員からお願いいたします。

【委員】 ご報告いたします。

地域生活支援拠点は昨年12月に第3回の部会を開催しまして、そこから議論のペースを加速させていこうということで、部会全体、全体での部会は月に1回ペース、また、その中でインナーワークといいますか、地域のニーズをより可視化していくための事業所アンケートを今、計画中でして、それについてのワーキングなどもその裏面で動いている。このような経過をたどっております。ちょっと私たちの部会が駆け出しが少し遅くなってしまっていて、今、お尻に火がついているという状況でございます。

また、今の中心的なトピックは、武蔵野市において地域生活支援拠点の5つの機能は今、何が整っていて、どのような課題があり、そして、どのようなところを目指していけばいいのかということを経験間で意見交換をしているところになっております。そのことを12月の部会、それから1月の部会で2回に分けてグループワークをして、意見交換を済ませたということでございます。

今回お配りした資料は、第3回の12月分のものでございますけど、4回目の部会、1月13日にあったものは、まだ、すみません、お手元にお配りするのには間に合いません、口頭での説明でご容赦いただければと思います。

もしよろしければ、ちょっと画面共有させていただくことはできますでしょうか。このような前提でグループワークをしたというのがございますので、簡単に紹介したいと思います。

この地域生活支援拠点について、5つの機能というものがあるわけなんですけども、この5つの機能というものについて、これはもう独立並行して存在しているのではなくて、地域生活支援拠点機能を果たすために構造を持っていると考えてみませんかということで、部会の皆さんと共有して意見交換したんです。

どういうことかといいますと、5つある機能のうち1つ、相談というのがありますが、これ地域、このひし形は地域だと思っていただければと思うんですけど、この地域の中で相談というのはコーディネート機能を果たすだろうと捉えます。また、緊急ということと体験ということは実際に障害のある方が、わくらすでいえばわくらすにお越しいただいたりとか、あるいはヘルパーさんがアウトリーチで介入したりですとか、体験というスペースに障害のある方が来られたりとか、障害のある方が直接利用する支援でもありますので、これ直接的支援機能かなと思うんです、この2つは。

さらに専門性ということと地域の体制づくりというものがあまして、こちらは地域生活支援拠点機能が横に広がったり、専門性を高めて障害のある人たちのその対応力を高めていくような、そういう機能ではないかと考えて基盤強化機能と分類してみました。

これ5つを絵にすると、こうなる。地域の中にいかに相談機能が巡らされているか。その相談機能の上に緊急と体験という2つの直接的な機能がのっかっている。それを広げたり高めたりするのが専門性であり、地

域の体制づくりである。こういった方向感というものを共有できるのではないのでしょうかということを前提に、こういう構造で地域生活支援拠点というものを考えてみませんか、そういうふうにした上で、武蔵野市では、今、何がどこまでできていて、そしてどのような課題があり、そしてここから先、武蔵野市はどういうふうに関係していく可能性があるのだろうか。こういうことについてグループワークをしたという経過がございます。これは、皆さんからもやはり地域では今こうなっているという実情をクリアに共有できましたので、これからまとめて、また皆様にもお示しできればと思っています。

部会では、やはり何を指すかということを追いかけていく方向性があるかと思うんですけども、もう一方で、足元を見ると、今その拠点機能として、今動き出せることももうあるんじゃないか。こういったことも見えてきていますので、大きな方向感としてこういう地域生活支援拠点を指したいよねということと、あとは今ある機能を生かせば、こういうところからもう始められるよねという具体的な小さなステップということも、これから見出し出していったらいいのかなと感じております。

ざっとでございますが、部会の報告としては、以上でございます。

【会長】 ありがとうございます。資料もご用意いただいて、非常に分かりやすくご報告いただいたと思います。

そしたら、同じく拠点部会の委員の方からもご発言いただきたいと思います。

【委員】 ありがとうございます。今、部会長が報告したとおりです。昨年度作成した計画を3年間で実行していくこととなりますが、3年間を目いっぱいかけてやっていると最終年度の4年目からその先につながらなくなります。実質的にもう始められるところを始めていこうという部分と、あとは将来を描きながらみんな話していく部分と、それぞれに進めていくことが大切だと感じました。将来を描きながら話していくことは部会が担い、実質的に動ける部分は、既に想定してきた方向で動いていければいいのかなと、イメージすることができました。

【会長】 ありがとうございます。

そうしましたら、他の委員もお願いいたします。

【委員】 こんばんは。

おふたりからご説明あったとおりなんですけど、私としては少し部会が、最初に部会長が加速をしてきたということをおっしゃっていたと思うんですけども、それに促されて部会員の方も様々グループワークを通して、あるいは自分がその資料を読み込むことによって、地域生活拠点で何なんだろうということを少しずつ私も含めて理解が進んだ。それで、各人がお勧めの地域生活拠点なんかをそれぞれ資料を提出したりして、やっとうち土台に乗ったというか、そういう感じが私は今しております。

今後グループワークについては、同じグループで固定されて5つの機能について話せたことに関しては、非常によかったんじゃないかと思っています。

以上です。

【会長】 ありがとうございます。

そうしましたら、今の拠点部会のご報告を受けて、ほかの方から、ご質問、意見あれば、全部言い終わった後だと忘れてしまうので、今の拠点についてご質問等あれば、委員の皆様からちょっとサインを送っていただきたいんですけども。いかがでしょうか。

そして、ちょっと私、ごめんなさい、ご説明を聞き漏らしたのかもしれないんですけども、最初の委員のご報告で事業所アンケートというのが出たんですけど、事業所アンケートを具体的にどういう事業所にどういったことをお尋ねするのかというのを、ご説明いただいてもよろしいですか。

【委員】 もともとの目的としましては、地域にどのようなニーズがあるのか、緊急や体験という具体的なニーズを地域の事業所はどのようにキャッチしているのか、あるいはないのか、そういったことが可視化できるようなアンケートを想定していたところなんですけども、よくよくメンバーで話をしていきますと、地域生活支援拠点の部会からのアンケートということで地域生活支援拠点って何？ というところからの説明がきくと必要なんだろうと。また、突然、部会からアンケートが届いた事業所の側からしたら、何かよく分からないなあというような、そういう接点になってもちょっと不幸かなと思ひまして、今どういう在り方、どういう目的でこれを進めていけばいいのかなということに、今ちょっといろいろご意見を頂戴しているという最中なんです。

私としましては、これから地域とつながっていく、このプロセス自体が地域の体制づくりになるんじゃないかなと思っているんですけども、地域の通所、入所、居宅、様々な事業所がありますので、市内にあるその事業所とつながりをつくることも目的にしながら、地域生活支援拠点ということの啓発も兼ねながら、それでいて地域生活支援拠点で果たすべき機能のニーズを吸い上げるような、おいしいとこ取りでそこまでうまくいくのかなというところがあるんですけども、やり方含めて郵送がいいのか、訪問がいいのか、そういうことも含めて検討していきたい。まずは、その部会の中だけで議論が完結するんじゃなくて、地域に耳を澄ませるといふか、地域の実態を調査するというプロセスは、どういう形であれちょっと踏めるものなら踏みたいなと思ひて、今、検討を進めている最中です。

【会長】 ありがとうございます。今まさに部会で協議していることを広く共有していただくと。共有していく中でつながりが生まれ、それぞれの事業所がキャッチしている課題が見えてくるということ想定しながら、今、調査のデザインを考えていらっしゃるということですね。ありがとうございます。

皆様からいかがでしょうか。拠点部会へのご質問やご意見ございましたら、ぜひお願いしたいと思ひますが、いかがでしょうか。よろしいですかね。

では続いて、地域移行部会の活動報告をお願いしたいと思います。部会長、お願いいたします。

【委員】 地域移行部会の報告をしたいと思ひます。まず、地域移行部会は、これまで4回の会合を行ってまいりました。任務は、やっぱり精神科病院に長期入院している患者さんの実態調査をして、どういう対応、政策を持っていったらいいのかということは主な任務だったんですけども、その調査をする前に、勉強会とか各自自治体で行われた調査、実態などを参考に、ではうちはどういう調査をしたら一番実態を得られるかということの研究してまいりました。

11月29日、いよいよ調査をしていこうということで進めて、長期入院実態把握のアンケート調査票をまずつくろうということです。長期入院患者は今132人、武蔵野市ではいらっしゃるという情報を持っていましたけども、その方に調査、実態調査をやっぴりしたいということで、調査票の、アンケート調査票をまず作成してみました。ちょうど2週間ぐらい前に、部会員の皆さんにこのアンケートでどうでしょうかと。さらに補強してくださいということで、今、案をまとめているところです。大体、今週いっぱいぐらいには目標として案をまとめた後、いよいよ発送作業をしていきたいと思います。

発送作業のシールのほうは部会員の方がもう160ぐらいの病院だと思うんですけども、作ってもらっていますので、その封入をどこかで部会員で一度はやりたい。市役所でやりたいと思っております。封入のほうですけども、封入する前に障害福祉課と最終案ができたなら突き合わせをして、二次元バーコードなどに回答してもらおうという方法も今考えておりますので、それが可能かどうか、さらにもうちょっと研究、今、調査しているところです。

いずれにしても実態調査して、大体は1か月ぐらい回答してくるのを待って、その後、部会員でもう一度、それを分析して、地域移行をどうしたら有効な手段があるのか、検討していきたいという状況であります。今の状況はそんなところです。

以上です。

【会長】 ありがとうございます。本当に部会を引っ張ってくださっていてありがとうございます。私も地域移行部会です。武蔵野市民で長期入院をされている方が132人という数は出ているわけですがけれども、やっぱり人が見えてこないわけですね。どこに、どういう人が今いるんだろうという、概要をつかむというところで、アンケートを企画しているところです。

それで、どのようなアンケートにするかということについては、ほかの自治体の例を参考にさせていただきました。自治体によっては、かなり突っ込んだ内容を、入院している方に質問しているアンケートもあったんですけども、今回の武蔵野市のアンケートは、まず、実態を把握するということを目的にしました。入院中の方に詳しく質問しても、その後につながる手だてを今こちらが持っていないところで、そういった一人一人の方に詳しいことを聞くというのはどうなのかと考えました。そこで、今回は病院の職員に対して、入院している武蔵野市の方が、例えばどういう年齢で、こういった疾患名を持っていて、退院において何が難しいのかという、そういった概要を病院の職員の方に答えていただくようなアンケートを実施するという方針になりました。それで今、委員がアンケートの案を考えてくださって、修正が必要なところがあるかを部会の皆さんで見ているところです。これが具体的に進んでいけば大きな一歩になると思っています。ありがとうございます。

では、地域移行部会について、何か皆様からご質問やご意見はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

では、また最後のところで何かありましたら、ご発言いただきたいと思います。

それでは、3番目、差別解消部会のご報告をお願いします。

【委員】 こんばんは。よろしくをお願いします。

前回の親会議から、11月16日、12月13日、1月18日の3回、部会を開催しました。特に、前回、親会議で意見のあった、港南区のこのポスターの名前のところ、港南区の名前のところを武蔵野市に替えるというお話の件なんですけれども、港南区の方に詳しくお聞きしたところ、港南区のほうとしても、そのままの内容で名前だけ武蔵野市に替えるのはちょっとやめていただきたいというお話もあったことや、皆様からの意見も踏まえて、武蔵野市版のオリジナルのポスターをつくることになりました。

港南区の方にお聞きしたときに、ついでにこのポスターの市民の皆さんのリアクションはどうでしたかということをお聞きしたところ、結構ツイッターとかテレビとかで放映されたこともあってかなり反響はあったそうなんですけど、どちらかという市民の方より事業所の方の反応が大きかったという情報を頂きました。

来月また部会を開催しますが、そこで、この武蔵野版のポスターをどんな内容にするのか、もう一度検討するに当たって、次回の部会までに各自がほかの市区町村のこういうポスターとか、どこかの団体がつくっている啓発ポスターを探してくるといところが、今、宿題になっています。

ポスターに関してはそういう形で、一方で関東バスとの連携のところは、そのポスターとはまた別で、差別解消部会で、このコロナ禍で運転手の皆さんが一生懸命運転してくださっている中で、バスの中であったよかったエピソード、見かけたエピソードや体験したよかったエピソードをお手紙にして、「運転手の皆さん、いつもありがとうございます」のようなお手紙を作って、その下のほうか裏面か、ちょっと今、検討しているところなんですけど、それを見た運転手の方からの感想を例えば頂くとか、そういうアンケートみたいなものをお手紙につけられないかというのを検討しています。

そのアンケートのところでは、障害者手帳をバスに乗るときに見せたときのこの値引きの操作が大変なのかどうかだったり、障害者の方がバスを利用するに当たって、正直なところ、どういうところが困っているのかとか、そういう率直な意見を出していただけるようなアンケートをつくれなかなと思っています。

2月の部会ではポスターの内容とバスの運転手さんのお手紙の内容を詰めていくところです。

以上になります。

【会長】 ありがとうございます。

お手紙の作成というのは、ほのぼのするやり方だなと思って伺っていました。同じく差別解消部会の委員、お願いいたします。

【委員】 こんばんは。

今、委員が本当に細かく丁寧に説明してくださったので、特にありませんが、やはり、関東バスとの関係を維持していくことが、大切だと思っています。

武蔵野版のポスターを、オリジナルなものをつくと話がまとまったので、本当によかったなと思っています。

以上です。

【会長】 ありがとうございます。

それでは、他の差別解消部会の委員からもお願いします。

【委員】 関東バスの交流会の件は、若干長くなっているから交流会が1回できればそれでいろいろできたようなことが、やっぱりコロナ時世というのがあって実現できなくなってしまうので、なかなか、何と
いうんですか、限られた中でいろいろ考えているというような状況だと思います。

ポスターのほうは、前回の親会の後に事務局からご説明いただいて、その後、10月だったかな。部会的时候にも部会にお越しいただいてご説明いただいたんですけども、もしかすると、武蔵野版をつくるというので冷や冷やされているかもしれないので。この間ちょっともう1回共有をさせていただくと、自立支援協議会の差別解消部会というか一つの部会として活動できる予算といいますか規模といいますか、そういうものはやっぱり限られているので、部会の活動としてポスターをつくる、配るという形なのか、あるいは、もう一からそのデザインをお願いして、ポスターを刷る枚数もかなり多くてということになると、自立支援協議会の一部会の活動としてはやっぱり規模が大きくなり過ぎてしまうので、別途、武蔵野市のまた別事業として進めていくことになるというようなお話を伺っていますので、そのあたりどういう規模感で進めていくかというのは、また今後部会で検討することになろうかと思います。

以上です。

【会長】 ありがとうございます。

では、同じく差別解消部会の委員、お願いします。

【委員】 皆さんから報告いただいたとおり、この間、ポスターと関東バスとの交流というのをポスターを絡めながら進めていくということを議論してきました。

内容については、これまで報告があったとおりなんですけれども、今、他の委員がおっしゃったように直接会って交流会とかできれば話が早かったんだけど、少しこのポスターとかを部会の中で議論していく中で、その地域の中で、障害をめぐる差別をなくしていくってどういうことなんだろうかみたいな、そういう理念的なところと、実際にそれをどうやって伝えてどんな内容を伝えていくのか、特にその地域の方で支援者だったり専門職だったりしない人向けに、限られた情報量の中で何を優先して伝えていくべきなのかみたいなことを議論してきました。

理念的なところと構想の具体的なところを行ったり来たりしながら、議論しているんですけども、そういう私たちの中の議論というのが少しまた続けていく中で整理されていって、何と、差別解消部会という名前がついていますけど、地域におけるその差別解消というのがどういうことなのかというのが、少し明確に言語化できるといいなと思いつながりながら議論に参加しているという状況です。

具体的なことについては、これまでご報告があったとおりかと思います。

以上です。

【会長】 ありがとうございます。差別解消部会は、交流というところが活動の軸だったわけですが、コロナの影響で難しいなかで、いろいろな工夫をなさっていると思います。

差別解消部会の活動報告に関して、何か皆様からご質問、ご意見はございますでしょうか。

お手紙を渡してということですが、やっぱり運転手さんも日々いろいろな大変な思いをされて、コロナ禍に

あって、まさに移動の手段が止まってはいけないというところではご苦労があると思うんですね。そういったメッセージを伝えつつ、いろいろな声を聞くという、そういったアイデアがとてもいいなと思って伺っていました。

差別解消もそうですけれども、障害のことを分かってもらうという思いもあるんですけど、それぞれの立場で皆さん、いろいろ大変なわけですから、運転手さんもいろいろな方がいらっしゃいますけれども、すごく親切にしてくれたとか、丁寧に対応してくれたとか、そういったこともしっかり伝えつつ、お話を聞いていくという、両方のベクトルがあるといいというのを、お手紙のお話を聞いて改めて思ったところです。ありがとうございました。

皆様から、よろしいでしょうか。

【委員】 いいですか。

【会長】 どうぞ、お願いします。

【委員】 関東バスだけでいいんでしょうか。ほかのサービスなり事業所なり。

【会長】 ほかを考えていらっしゃるかというところに関しては。

【委員】 そうです。

【会長】 何かありますか、差別解消の委員。そのほかのところというところで。

【委員】 西武バスとか、小田急バスとか、市内、ほかのバス会社さんもあるよねというお話や、あと電車とか、そういうJRとかそういうのもあるよねというお話は出ていたんですけど、去年から関東バスのアンケートをやっていたりしているのもあるので、ここで違うバス会社さんに替えるというのは、ちょっとどうなのかなという意見が部会の中ではあったので、関東バスは続ける。それと同時に、西武バスとか、そういったところに広げるかどうかというところだと思うんですけど、取りあえずこのお手紙に関しては関東バスで実施し、あとはポスターができたときに、それを西武バスとかJRとか、そういったところに持っていくとか、そういうところでは違う会社とかという。

【委員】 自分たちの身を正すというのではないんでしょうか。

【会長】 いわゆる支援サービス機関が身を正すという視点も必要ではないかというご意見だと、今、思いましたけれども。

【委員】 訪問入浴を利用する際、訪問入浴サービス従事者が全て男性スタッフで、女性の方とかが男性は嫌だといっても、自分で探してくださいって、これこそ差別じゃないんでしょうか。

【会長】 ありがとうございます。差別解消について考えたときに、外向けのことも必要だけれども、いわゆる福祉サービスの事業、我々の行いが、結果的に差別になっていることがあるのではないかという、そういう視点も必要であるというご意見だと伺いました。

このご意見は、差別解消部会だけではなく、どの部会も、いわゆる障害のことを広く知ってもらいたいというベクトルと、我が身を正すというベクトルの両方をしっかり持っている必要があるというご意見だと承りました。それぞれの部会で今の言葉を受け止めて、部会のメンバーにも共有していただければと思います。

そういう形でよろしいでしょうか。

【委員】 はい。とか、ほかにも65歳問題が絡んでくるんですね。

【会長】 はい、分かりました。ありがとうございました。

あと、よろしいでしょうか。

では、続いて、コロナ対応部会のご報告をお願いします。部会長から、まずお願いします。

【委員】 よろしくをお願いします。

コロナ対応部会は11月30日に第2回の部会を行いました。その議事録は、今回、資料で配付されていると思います。今年に入って1月19日、先週、第3回のコロナ対応部会を開いています。

私たちはこの間、コロナに関する事業所向けアンケート、それと当事者に向けてのアンケート、大きく分けたこの2つのアンケートを取っていきましょうと。結果的に事例集という形でまとめていこうという方向性を、2年間かけてやりましょうということで話を詰めてきています。

取りあえず、まず事業所向けのアンケートについて、今、その内容を具体的に詰めているところです。前回の部会の中で、この事業所向けアンケートの趣旨を改めて確認をしました。趣旨として、その一つは、今コロナが感染拡大、広がっていく中で、現場はどうなっているのかということ、まずしっかりつかみましようというのの一つ。

それから、あと2つ目には、そのコロナ禍にあっても私たちとしてはできるだけよい支援をしていこうとしているわけで、その辺の工夫のしどころをそれぞれつかめるようにしておきたい、その工夫をつかんでいこうということが、2つ目としてあります。

3つ目には、そのつかんだ内容をきちっとまとめて、成果として各事業所に配布し、具体的には明日に生かせる事例集みたいな形でまとめていこうと。そのためのアンケートだということを確認しました。

具体的な内容については、アンケートの内容については、一つは先ほど言ったように、実際の現場、何が起きているかということをつかむということで、まず、事業所の環境、コロナ禍、感染予防に対する環境をどのようにつくっているかというのが一つ。それから2つ目には、具体的な支援を、どうコロナが広がらないような支援を、またコロナ禍にあってできるだけみんなが満足するような支援をどのようにしているか、していくか、いつているかということのその支援の中身についてお聞きする部分、それから3つ目には、今後どういうことが必要とされているのかということについて、お聞きするような構成をとっていこうと思って話をしています。

やはりこの間、感染が急拡大していく中で、身近に濃厚接触者とか、実際に陽性者が出てきている。その中で、どのように本当に対応していったらいいんだろうかということ、改めて皆さんやっぱり悩んでおられるところがあって、そういうことも含めて今後生かすようなアンケートが取ればなと思っていますところ。

それで、配布方法については、最初は全事業所にみたいなこともちょっと考えたんですけど、集約やなんかのことも含めて、それはちょっとどうかなという意見も出て、まず親会と、それからコロナ対応部会のそれぞれの所属法人、それから施設に協力をお願いして配布をしていったらどうかと。一部メールでもできるだろう

し、メールが難しいところは印刷物で郵送というような形で周知をしていくということを話しました。

それと、今後のスケジュールについては、ちょっと押せ押せになってしまったんですけど、年度内にさらに内容を詰めて、年度内には内容を確定して、配布の手順というかな、準備を済ませると。来年度4月以降、すぐに配布をして、5月、6月分ぐらいで集約をしていければいいかな。その後、その事例集としてまとめる作業に入るというようなスケジュールでどうでしょうかということで、今、話をしているところです。

それで、ちょっと前後しますが、事業所に向けてアンケートを配布するわけですが、回答してもらう人たちは現場の支援員を想定する、対象とするということで、経営層ということになると、経営問題みたいなものが結構入ってきてしまうと思うので、今回はちょっとそこにはあまり触れずに、現場の支援の工夫のしどころというところをきちんとつかめるようなものにしていこうということが話し合われました。

話が前後してしまったんですけども、一応そういうような内容で今取りまとめているところです。以上です。

【会長】 ありがとうございます。

では、同じくコロナ対応部会の委員、お願いします。

【委員】 よろしく願いいたします。

具体的なアンケートの内容を、この部会でブラッシュアップを少しずつしてきているということもありまして、委員の皆様からも具体的にフローチャートを、どういうふうに感染が起きたときという参考になるようなフローチャートを見せてほしいというような具体的な内容の意見交換ができるようになってきているなど感じているところと、あとアンケートを取った後、今も本当に刻々と状況が変わっている中なんですけれども、状況と合わせた支援や対策というまとめ方をしたいねという意見も出ています。

感染真ただ中、本当に今、上昇傾向にあるときの対策や支援、落ち着いてきたときに何ができたのかというのを、きちんとこういうふうな感染対策をしたよ、支援対策したよということを羅列していくことではなくて、状況に合わせて、本当に真ただ中にはこういう対策、支援をした。で、落ち着いてきたときには、具体的な行事はできないけど、それに代わるようなことができた。落ち着いたときだけ、感染したときだけということではなくて継続してこれからもしていこうというような対策や支援という形で、アンケートの中身を状況に合わせたものでまとめていこうというような形を、意見も出ていますので、やはり成果物として見返すことができたりだとか、また、何か新たなことがあったときに参考になるようなものというのにしたいと思いますので、状況にというところも少し入れていきながら、まとめていきたいなと思っています。

以上になります。

【会長】 ありがとうございます。

本当にコロナの問題は、感染が落ち着いているときと、拡大しているときと、すごく動いているので、そのあたりが難しいと思います。もちろんアンケートをつくる側も、回答する側も、まさに動きのある変化のまただ中にいるというところですよ。

ありがとうございます。皆様からコロナ対応部会の活動報告についてご質問等はございますでしょうか。よ

ろしいですか。

いろいろなアンケートがあると思うんですけども、今回は利用者と接している直接支援の場面での、苦勞であったり工夫であったりというところに焦点化したアンケートであると。その次につながるいろいろな経験値を事例集として出すということだと伺いました。ありがとうございました。

それでは、障害当事者部会、お待たせしました。部会長からお願いいたします。

【委員】 こんばんは。よろしくお願ひいたします。今年もよろしくお願ひいたします。

障害当事者部会のほうは議事録を資料で添付していただいております。12月20日に開催しましたものです。今月、今年、2022年の1月になって、先週の月曜日にも開催しておりますが、議事録がこの親会には間に合いませんので、また後日ということでもよろしくお願ひいたします。

障害当事者部会としての、いつもの流れで各部会に出ている部会員からの報告、議事録にもあるんですけども、各部会よりということ、どのようなことが話し合われているかということも共有します、まず。そこからいろいろな話になっていくんですけども、まず今年度の障害当事者部会のお役目というか、役割として頂いているのが、障害当事者の声を集めるというか拾うというようなことで、つながりと、心のつながりに当事者部会への参加を気軽にどうぞという内容のものを掲載していただいております。

今のところ、お一人ご参加が、今月あったんですけども、障害の当事者の方ではないご家族の方のようでした。まだコロナがこのように数も上がったり下がったりしているので、コロナ感染者数が下がれば参加しやすくなるかということ、そうでもない。やはり介助員の方に移したらどうしようとか、逆に移されてはどうしようという、やはり心配の部分は引き続きありますし、その辺の気軽に参加したりとかということがなかなか難しく、参加されるメンバーも固定化というか、少し減った状態で固定化していることはあります。ただ、そこに参加していなくても、多分、後で他の委員からもご報告あると思うんですけども、直接、今まで参加していた方に電話とかメールとか、いろいろな方法で連絡を取り合うということも、引き続きやっているところです。先ほどの差別解消部会のところであった、1個のところだけ何か解消すればスムーズに行くというのではなくて、全体に関わる移動のことだったり、生活のことだったり、いろいろなことが絡み合っていて、そこに社会的な障害があってそこにアクセスしづらい、今のこの社会の構造がそうなっているところが、コロナになってからすごく浮き上がっているというか。

もうこれだけ分かってきているので、全体に働きかけられるものがないのかなというところで、『心のバリアフリーハンドブック』の改訂のお話もあるんですけど、今年度は予算の関係でまだ動きが取れないと親会の事務局からご説明いただいているので、その辺をまた追っていろいろ協力というか一緒につくっていききたいなと思っています。それで、障害を広く、その障害差別をなくしていくところで、障害平等研修をやってみてはどうかという提案を障害当事者部会から差別解消部会のほうにさせていただいたりとかしています。というのは、その障害の社会モデルというところの基盤を世の中全体に少しずつでも知っていただいて、その上で何かこう日常のところの何ていうんでしょう、いろいろなリソースがつながっていくといいのかなと思っています。

いろいろな話をした後、ふだんどう困っていることとかどんな状況とかと話す中で、それぞれの年代だったり、生活の中で出てくる困り事も、親会で出ていない内容で、先ほど、ちらっと出ていた65歳問題とか、働くところの介助者の問題とか、いろいろ出ています。当事者部会としてはやっぱり当事者の声を伝えていくのを、大切にしていけないといけないなというのを今日の皆さんのお話を聞いていても感じたところです。なので、何かその辺も『心のバリアフリーハンドブック』だけじゃなくて、先ほども何かほかの事業との関連もあってという、ほかの委員の方が報告されていたのがあったんですけど、多分この『心のバリアフリーハンドブック』もそうなのかなあというのをちょっと感じているところです。

「バリアフリー基本構想2022」というのが市であって、当事者部会で検討段階のときにヒアリングをしていただいたことがありました。その委員会も進んでいるので、その中にも心のバリアフリーがあったりとか、障害の社会モデルとか出ているので、その辺と連携が取れるといいのかなあと思っています。

長くなってすみません。以上です。

【会長】 ありがとうございます。

では同じく、当事者部会の委員からお願いします。

【委員】 今、委員から出たように、コロナになってから出てこられない人、それぞれで受け持って今やっている。来られない方とか、あと全盲の方でヘルパーを頼むのがちょっとという方もいらっしゃる、頼む者が濃厚接触になるのでちょっと無理とかなんとか。自宅のインターネット環境によってオンライン会議に出てこられない方とか、あとその方がZoomの設定だとかできないというので、そしたら僕はもう何もできないので電話で調子どう？ とって聞くぐらいで、あとは近所の方とかに顔を見に行ったりして、元気だよと確認で、みんなに報告する。気にはかけているけど連絡が取れなかったり、メールは届いているけど返事が来なかったりするんで、結構、安全確認というか、生存確認とかって冗談を言っているけど、これが冗談でなくなったら嫌だなということで、ちょっとその辺は大変です。

以上です。

【会長】 ありがとうございます。なかなか難しい問題です。先のコロナ対応部会とも関連するようところで、支援者側からの視点もあるんですけど、きっと当事者の方はサービス利用以外の生活のところ、様々なコロナの影響を受けていらっしゃるんだろうと思って伺っていました。ありがとうございます。

そうしましたら、同じく当事者部会の委員、お願いします。

【委員】 なかなかコロナの話ばかりで、あったかまつりなんかもないわけですし、できないことが多くて、アイデアとか今起こっていることとかをいろいろ部会の中ですれ合っているんですけども、例えば、模擬選挙のビデオの、過去のビデオの文字起こしをして字幕をつけようと思って、文字起こしまではやったんですけど、字幕をつけるテクニックが部会の中になくて頓挫してしまっていたりとか。あと、先ほど委員がおっしゃったお風呂の入れない方がいらっしゃるらしいという話も聞くんですけども、部会で話しても解決のしようもないですし、こうやって親会に投げてもどこにも引っかからないわけですよ。今、本当に困っているんだったら、何とかならないものかなとも思いますし。

何かこう、どこにも引っかからない問題が耳に入ってきて、そうなんだ、大変だなって思いますけど、何かこう、解決まではいかなくとも、話が進まないものかなと思って、もどかしく思って消えます。でも皆さん、アグレッシブにいろいろ発言なさっていますという報告です。

【会長】 ありがとうございます。

今の委員のご指摘は、非常に重要だと思います。課題はどんどん上がるんだけど、その行き場がない。これはどこの自治体の自立支援協議会でも言われるところで、本当に課題は上がるけど、それをどこに持っていったらいいのか。当然その部会で解決できないこともたくさんありますし、協議会としてもやっぱりできることが限られている中で、協議会自体のモチベーションをどう維持して、どこを自分たちが担っていくのかという話しは、ほかの自治体の協議会でも聞くことなんですね。

だから、そのまま良いというわけにもいけないので、今、委員がおっしゃったように、こういう問題が上がっているんだけど、これはどこに持っていったらいいんだろうということを、気づいたところで出し合って、まずはそれをみんなが共有して知るということ、そして、その問題に対してこういった実例があったとか、こういう情報があるということ、皆さんの日頃の英知というか経験というのを出し合っていくことが必要なのではないかと思います。そして私たちの協議会や部会は、ここの部分だったら取り組めるのではないかということを確認していくことが、何よりも重要なことかなと思いました。

ありがとうございます。大変貴重なご意見を頂きました。

当事者部会の活動報告に関して、何か皆様からご質問、ご意見いかがでしょうか。よろしいですか。

本当にコロナ禍の大変な状況の中で、部会によってはピッチを上げて、さらに活動を進めていただいている状況でした。今日は、意見交換する時間があまりないんですけども、できれば、それぞれの部会の報告を聞いて、こういった情報があるよとか、関連するようなことがあれば、メールでもぜひ投げかけていただきたいと思います。

どうしても皆さんもお忙しいので、言いつ放しで終わってしまう傾向があるんですけども、できるところで、気づいたことやアイデアを投げかけていただければと思います。それがまた次の部会の活動につながっていくのではないかと思います。皆様、ご報告ありがとうございました。

そうしましたら、活動報告に関しては、以上で一旦終えたいと思います。

(2)全体会について

【会長】 親会の委員として新しく入った方いらっしゃいますけれども、これまでこの自立支援協議会は、毎年2回の全体会を行ってまいりました。1回目は年度始めです。大体、1回目の親会の後、部会のメンバー全員が集まって、今年度の協議会の方向性とか各部会の目標とか計画とかを、全員が集まって部会に分かれて決めるという、そういったスタートとしての全体会。それから3月に2回目の全体会を開催しております、こちら部会メンバーも含めて全員、来られる方に来ていただいて、1年間のそれぞれの部会の活動報告、それから後半は部会ミックスでテーマを決めてグループディスカッションを行うという、そういった構成で行ってきていました。

ところが、この2年間、全体会に関しては、コロナの影響で開催できていない状況です。今年度の全体会をどうするかについて、事前に副委員長と私と事務局とで打合せを行いました。私たちの提案としては、今回はオンラインでの全体会を開催したいと思っています。やはり2年間、全体会が開催されず、各部会でいろいろ活動してくださっている方は協議会の全体が見えない中で、ほかの部会とのつながりのない中で取組んでいただいている状況です。何とか他の部会員の皆様ともつながるような、そういった全体会を今年度は開催したいと考えています。ただ、今の状況を踏まえると、対面で大勢の方に来ていただくということは現実的には難しいと。それで人数を制限するのではなく、オンラインで部会で活動している方になるべく参加していただくという形がいいのではないかと考えています。

流れとしても、まず前半は各活動部会の活動報告、後半はほかの部会との交流の意味合いも含めてミックスでのグループディスカッションという形はどうかと思っています。

全てのプログラムをオンラインで行うことを考えているんですけれども、前半の部会の活動報告に関しては、ライブでZoomで行うとなると、通信上の不具合で途中で聞けなくなったとか、その日は都合が悪くてZoomにアクセスできないという人もいらっしゃるかと思うので、部会報告のところは事前に録画した資料をつくっていただいて、全体会に参加してくださる方には動画視聴の形で各部会の活動報告を聞くと。また、後半はZoomでグループに分かれて、グループディスカッションを行う。そういう形を提案させていただきたいと思います。

よろしいでしょうか。全体会は開催したい。ただ、オンライン開催。オンラインでも、前半の活動報告は事前に録画して、それをなるべく多くの方に視聴できるようにすると。後半は、こうやってZoomで何十人という方にアクセスしていただくことになると思うんですけれども、テーマを決めてグループディスカッションというような流れです。

開催するかしないか、開催する場合の開催方法に対して皆様のご意見を伺いたいと思います。

いかがでしょうか。

【委員】 通信環境とかいろいろあるかと思うので、例えば、オンライン環境が整っている多目的ホールとか、いわゆるハイブリッドベースで、何人かはそこで集まる形が取れたら、もっと参加しやすい方ができるんじゃないかと思っています。

以上です。

【会長】 ありがとうございます。

そういったことも打合せで出てきていまして、個々でZ o o mにアクセスするのが難しい方もいらっしゃるかもしれないので、どこか拠点を決めて、そこに集まることも可能かどうか。先ほどの打合せでは、事務局が拠点化して、何人かはそこからアクセスすることも検討できるかという案も出ていました。

ただ、それはコロナの影響によるので、例えば何人までなら大丈夫とか、また感染状況によっては、集まるということが難しい場合もあるかもしれないという話も出ていました。事務局のほうでは補足していただいているんですか、先ほどのお話を。

【事務局】 先ほど事前に委員長、副委員長と打合せをさせていただいたときに、どこかの会場を1か所ご用意させていただくことはできないかという話もしていました。

もしやるとしたら、市役所のどこかの会議室をご用意できればいいのですが、委員長がおっしゃるように感染の状況等々によって、その場の状況が変わるということと、3月というその時期が、なかなか市役所の会議室が空いているところが少なく、どうしても日程が限られてしまうこと、その2つが、懸念材料としてはあります。

ですので、なるべく調整したいとは思ってはいますが、どのような形でご用意できるかというのが即答ができないという状況です。

以上です。

【会長】 ありがとうございました。

委員のおっしゃるように、そういうハイブリッドにすることで参加できる方も当然いらっしゃると思いますので、検討中というところでご理解いただければと思います。状況が刻一刻と変わっていく中で、そのときに可能な対応でということになってくるかと思います。

あと、Z o o mで行うグループディスカッションなので、Z o o mのブレイクアウトルーム機能を使うということになります。その場合、1か所にたくさん集まると、そのグループ分けがなかなか難しいこともあるかもしれません。そのあたりは少し状況を見ながら、実際の運用面を考えながら、なるべくいろいろな方がアクセスして、実際そこでつながって意見交換ができることが目的でもあるので、そこがうまくいく、最適な状況を事務局とも相談したいと思っております。

大まかな進め方というのは今言ったような形でよろしいでしょうか。

そうしますと、部会の活動報告は部会長にお願いしているので、今、ご報告していただいたように、1年間の部会の活動報告を、7分か8分位で、録画していただくことになりますので、事前の準備を部会長の皆様にはお願いすることになるんですけども、そのあたりもよろしいでしょうか、お願いして。

すみません、ありがとうございます。

あと、グループディスカッションのテーマについて、今日、思いつくところがあれば、ご意見いただければと思っています。

画面共有をいたしますけれども、これが平成29年度、3年、4年前になります。全体会の次第です。平成29年では、「協議会が取り組むべき地域課題について」というテーマで各部会ミックスで話し合ってもらいました。ディスカッションした後、各グループで話し合った内容を発表していただいて終わるという流れでした。そして、平成30年度ですけれども、このときのグループディスカッションのテーマは、「協議会10年の活動を振り返り、今後の方向性を考える」で、参加した方にグループでディスカッションしていただきました。これも各グループ、どんなディスカッションだったかというのを発表していただいて終わりという流れになっています。

この協議会10年を振り返るということを経て、今年度、新たな部会構成へと変化したことがありますので、今後の協議会活動につながるような、そういったディスカッションを広く部会の皆様から挙げていただけるといいなと思っています。

これは過去の例なので、イメージをつけてもらうためのものです。それぞれの部会のメンバーが話しやすいようなテーマが一番だと思います。今年度はどういったテーマで、みんなで話し合いをできるといいか、何かアイデアがあったら出していただきたいんですけども。いかがでしょうか。

【委員】 この今年度からの計画策定、それって計画の実施年度の1年目なので、ここのテーマから取るのはどうかなと思いました。

以上です。

【会長】 例えばどんな。重点課題のところですかね。

【委員】 そうですね。全部取りたいぐらいなんです。それはちょっと難しいので、1つ。そうですね。1つというのと、どれでしょうか。

【会長】 いいです。そういった課題とか、そういう書いてあるところですか。

【委員】 そうですね。

【会長】 そこから選んではどうかと。

【委員】 はい。

【会長】 ありがとうございます。チャットに入れています。あと、いかがですか。

【委員】 名称が変わってどうなってかっていう。各部会の名称が変わってちゃんと機能したのかとか。

【会長】 分かりました。

今年度に関しては、武蔵野市が取り組むべき課題として決めた、計画を立てたことに対して、それぞれの部会がミッションを持って活動していただくことになっているので、まずはそのミッションを果たすところが部会の一次的な使命というところをお願いしているところです。

確かにいろいろな成果物とか活動とか、これまでやってきたものが、どこで対応するのかということは、確かにあります。更新が必要なこともありますね。つくったものが古くなったときに、それをどうするのかという。これまでの活動や成果物と、新しいことと、どういうふうに担っていくのかという、協議会の運営に関わることですね。

ありがとうございます。

あと皆様、いかがでしょうか。ディスカッションのテーマ。計画にあるテーマは複数あるので、委員が出してくださったのは、そこに中身が幾つかあるということだと思うんですけども。

あとは、今、特にないですか、皆さん。

そうしましたら、部会の皆様もオンラインで「初めまして」の方もいて、慣れないところなので、話しやすいテーマというところを基準に、ご提案申し上げるという流れでよろしいでしょうか。

では、慣れないことで、皆様にもいろいろご負担をおかけするかもしれませんが、活動報告では部会長の皆様をお願いするところですので、そのつもりでお願いしたいと思います。

そうしましたら、今日の議題として以上ですが、その他で何か皆様からございますでしょうか。よろしいですか。

私から1点だけ。先ほどの報告を聞いて、今年度は新しいミッションを各部会が担っていて、やはり実態を把握するというのをどの部会も重視されていると思いました。そのツールとしてアンケートを企画しているところが多かったと思っています。最近はウェブアンケートも多くなっていて、インターネットを使う人にとってはウェブのほうがずっと答えやすいところもあるんですね。クリックしていけば答えられるという。

ただ、全部をウェブにするとすると、漏れてしまう方たちが出てくるので、全部ではなくても、今後の検討としてウェブアンケートの実施の可能性も検討できればいいと思いました。予算のことも含めて、解決できるところもあるかと思ったところです。

では、特に皆様からなければ、今日の議題は以上とさせていただきますと思います。

4 事務連絡、その他

【会長】 先ほどの全体会は、年度末の3月開催予定なんですけれども、先ほど事務局からのご説明ありましたように、オンラインでの実施というところでは、日程が限られているところもありますので、現時点では調整中というところをご了承いただきたいと思います。

では、事務局からその他の連絡事項をお願いいたします。

【事務局】 今日はどうもありがとうございました。

今お話しいただいた全体会の日程については、また委員の皆さんの日程調整もさせていただきながら決めていきたいと思っていますので、改めて、ご連絡を差し上げます。

今現在で決まっている日程が、次回の親会につきましては年度初めに日程調整をさせていただいて、3月30日午後6時半からとさせていただいております。皆様、ご予定をよろしく申し上げます。

あと、もう一つ事務局からお願いですが、今、部会のほうを進めていただいている中で、アンケートですか、いろいろ調査を予定されていると思います。郵送料などが必要な場合には、予算の組替えなども必要な場合がありますので、できましたら確定する前に郵送予定があるよとご連絡をいただくと事務局としても助かります。2月中旬ぐらいまでに、一度、ご連絡いただければと思います。

事務局からは以上です。

【会長】 ありがとうございます。

では、これで全部の議事が終了ということによろしいでしょうか。

今日は皆様本当にありがとうございます。コロナが厳しい状況ですので、ぜひ皆様もお体に気をつけて、また3月の全体会親会でお会いしたいと思います。では今日の協議会親会は、これにて終了となります。

どうもありがとうございました。

5. 閉会